

第12回日本臨床検査学教育学会学術大会を終えて

松下 誠*

本年度の学術大会である第12回日本臨床検査学教育学会学術大会は、8月23日(水)~25日(金)の3日間の日程で、埼玉県立大学で開催されました。有料参加者は、会員校教員324名、日本臨床衛生検査技師会会員8名、会員校学生169名の合計501名となり、その他学会運営に関わった本学学生、聴講のため参加された近隣の学生、協賛企業の方などを含めると実に650名以上となりました。このようにたくさんの皆様のご参加があり、無事学会を盛会裡に終了することができました。これも会員校の先生方ならびにご協力いただきました企業の皆様のご指導、ご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さて、今回の学術大会の内容は、例年と同様に、特別講演、基調講演、大会長講演、教員学生合同

研修会をはじめ、3つのシンポジウム、一般演題、科目別分科会を企画しました。まず、学会テーマは、『つながりを創る』としました。つながり、とは、臨床検査技師教育に関わるさまざまな結びつきと考え、各養成校で工夫がなされ、特色あるものが創り上げられています。そして、今回の学会がこのような多様で斬新な取り組みを情報共有し、これからの臨床検査技師教育における新たな価値を創造する機会となることを願い、このようなテーマとしました。

第1日目は、今年度より本教育協議会の理事長に就任されました奥村伸生先生(信州大学)による「これからの臨床検査技師教育・臨床検査学と協議会のあり方」をテーマとする基調講演からスタートしました。次に、シンポジウムIでは、「臨



写真1 総合受付



写真2 企業展示

*埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 検査技術科学専攻 matsushita-m@spu.ac.jp

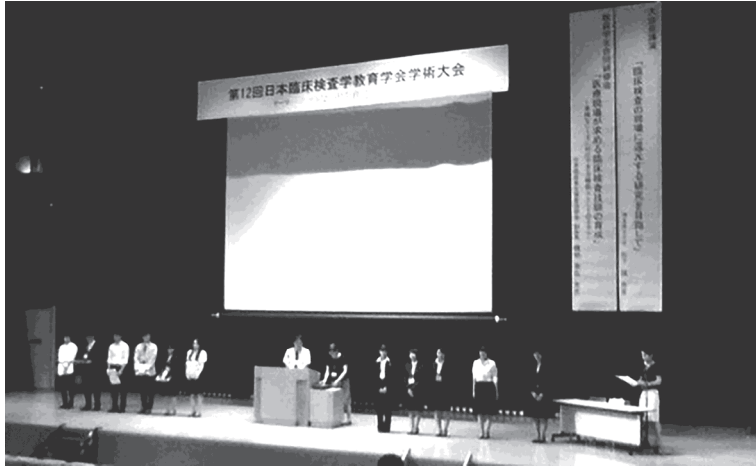


写真3 表彰式

床検査技師養成課程において、真に学びのある連携教育とは？」をテーマに、4人の先生にシンポジストをお願いしました。1題目は「チーム医療の基盤づくりを目指した多職種連携教育プログラム アセンブリ」を藤田保健衛生大学の市野直浩先生、2題目は「群馬大学における専門職連携教育の取り組み」を群馬大学の松井弘樹先生、3題目は「チーム医療教育－より安全で良質な医療の実現を求めて－」を北里大学の古田玲子先生、4題目は「埼玉県立大学の連携教育の取り組み－特に4年次におけるIPW実習について－」を埼玉県立大学の井原寛子先生が、それぞれ自施設における専門職連携教育の取り組みについて講演しました。次に、公立大学法人埼玉県立大学理事長の江利川毅先生に「国家行政の政策決定プロセス－ある国家公務員の体験より－」の特別講演を実施しました。

第2日目は、一般演題、教員学生合同研修会、および科目別分科会を開催しました。教員学生合同研修会は、「医療現場が求める臨床検査技師の育成－多様なニーズに対応できる職能人としてのスキル－」をテーマとして、日本臨床衛生検査技師会副会長の横地常広先生の講演が行われました。また、一般演題は109演題の発表が行われ、その内訳は教員32題、大学院生42題、学部生35題でした。審査の結果、優秀発表賞は

大学院セッションが7題、学部セッションが6題の計13演題が選考されました。

第3日目は、シンポジウムを2テーマ開催しました。まずシンポジウムⅡでは『私の研究』をテーマとして3人の若手の先生にシンポジストをお願いしました。1題目は「輸血学領域の研究－私と血小板抗原・抗体－」を埼玉県立大学の松橋美佳先生、2題目は「臨床化学領域の研究－測定法開発研究のこれまでとこれから－」を九州大学の外園栄作先生、3題目は「微生物学領域の研究－細菌の薬剤耐性化－」を東京医科歯科大学の齋藤良一先生が、それぞれご自身の研究を他分野の先生に研究の着眼点など分かりやすく講演しました。次にシンポジウムⅢでは『つながりを創る特色ある臨床検査技師教育』をテーマとして4人の先生にシンポジストをお願いしました。1題目は「夜間定時制における臨床検査技師教育」を京都保健衛生専門学校の小澤優先生、2題目は「特例適用専攻科を設置する短期大学による臨床検査技師教育」を高知学園短期大学の富永麻理先生、3題目は「指定校大学における臨床検査技師教育」を神戸常盤大学の坂本秀生先生、4題目は「大学院における臨床検査技師職能教育」を東京医科歯科大学の加藤優子先生が、それぞれ講演しました。

また、今回の学術大会は、埼玉県立大学が共催として開催させていただきました。会員校の教育機関が共催となったのは初めてだと思います。本教育学会は教育機関が中心となって運営されている学会ですので、他の臨床検査関連学会のように、試薬メーカーや機器メーカーの広告・協賛が得られにくいものと思われます。これは逆に、会員校の自施設を会場として開催することで、会場費、パソコンやAV機器などのレンタル料、などは格安で開催可能となります。また、専門職に関わる教育学会を共催することは、共催する大学にとってもよいアピールになりますので、お互いにメリットがあったものと

考えています。

最後になりますが、今回会場となった埼玉県越谷市付近は宿泊するホテルがほとんどなく、また東京から約60分という不便な立地にもかかわらず、全国から多数の会員校の先生方、学生の皆様にご参加いただきました。学会運営にあたりました埼玉県立大学の教職員を代表しまして、厚く御礼申し上げます。また、次回の第13回学術大会は北海道大学の山口博之先生のもと、札幌で開催されます。本学会の益々の発展と皆様のご多幸を祈念し、学会終了のご報告と御礼のご挨拶とさせていただきます。